

校名案の検討経過

■ 第 1 回校名検討部会 (R1. 10. 16)

(主な意見等)

- ◇ 伝統や地域らしさを踏まえて「生野」の名前を残す案の方が良いという考え方もできるし、地名のイメージが前面に出すぎないようにするという意味で「生野」の名前を残さないという考え方もできると思う。
- ◇ 既存の名前を残すとなれば收拾がつかないので既存の 4 小学校と全く違う新しいイメージの校名を検討してはどうか。
- ◇ 今回の学校再編は、ある学校が別の学校に吸収されるということではない。そのような誤った印象を持たれないようにするためにも、既存の校名と全く異なる新しい校名としてはどうか。
- ◇ 校名は地域にずっと残る大きなもの。どのような形であれ、地域みんなで考えていけるよう、広く意見や声を集められるような手法をとって進めていくべき。

■ 第 2 回校名検討部会 (R1. 12. 6)

(主な意見等)

- ◇ 検討の結果、以下の内容について 1 月の協議会に報告し議決をもらうことになった。
 - ・ 一般公募を行う。(応募対象者は限定しない)
 - ・ 募集期間は 1 か月。(2 月に実施)
 - ・ 応募等のあった校名案について、部会で選定・絞り込みをし、児童生徒による投票を行い、部会で集約ののち協議会において最終校名案を決定する。

■ 第 13 回生野中学校区学校設置協議会 (R2. 1. 22)

- ◇ 校名案の公募については、令和元年 12 月 6 日開催の校名検討部会にて確認された内容のとおり実施することを決定した。

■ 校名案の公募 (R2. 2. 3～2. 28)

- ◇ 令和 2 年 2 月 3 日～2 月 28 日までの間、全国に募集。52 件の校名案の応募をいただいた。(別紙参照：行政案 17 件とあわせて計 69 件)

■ 第 1 回校名専門部会 (R2. 7. 8)

- ◇ 校名案を絞っていくなかで次の点に留意しながら進めることとした。
 - ・ 「名は体を表す」を基本とし、奇をてらうようなものとししない。
 - ・ 意図せず略称ができてしまうため、そこにも配慮する。
 - ・ これまでの校名案検討の基準があったが、今一度フラットな視点でも検討する。
 - ・ 固有名詞、特定の地域や出来事を連想させる表現は避ける。
 - ・ 目指す学校の姿が限定されるような表現とならないようにする。
 - ・ 単語の順番が組み替わったような案を複数残さない。
- ◇ 検討の結果 7 案に絞り込み、検討会議に報告することとした。

■ 第 2 回生野中学校区学校適正配置検討会議 (R2. 7. 22)

(主な意見等)

- ◇ 今は「生野」の地名に誇りを持っていても、先々、大人になったときに感じ方が変わるかもしれない。「生野」という言葉が無い校名が理想だと思う。
- ◇ 意味のある名前、また新しいことをするので新しい名前になるのが好ましいと思う。
- ◇ 「生野」という地名へのイメージは時代によって異なると思う。「生野」という地名がなくなろうとしている現状がある。今でこそ住所としてあるが、いずれは消えるのではないか。「生野」の名前を校名にだけでも残すべきではないか。
- ◇ 候補に選ばれなかった校名案にも「生野」が付くものが多く、思い入れを感じさせる。「生野」という地名のイメージは時代によって変わると思う。「生野」の名前を残す案がいいと思う。
- ◇ 生野魂は心にもっていたらよい。新しい事をしていくという時であるので、全く新しい名前にすればよい。
- ◇ 「生野」と名のついた学校が、初めての義務教育学校として素晴らしい学校になったとなれば生野をアピールできるのではないか。